

鳥取県における 新型インフルエンザ等対策訓練



R5. 11. 9 (患者搬送訓練)

R5. 11. 9 (対策本部運営訓練)



令和5年12月26日
鳥取県 福祉保健部 感染症対策局
局長 荒金 美斗

これまでの新型インフルエンザ対策等の訓練実績

1) 年度ごとに、ステージをあげて本部運営訓練を実施

年度	想定ステージ	想定ウイルス	備考
平成25年度	海外発生期	鳥インフルエンザA (H7N9)	
平成26年度	国内発生期	鳥インフルエンザA (H7N9)	
平成27年度	県内発生早期	鳥インフルエンザA (H7N9)	
平成28年度 平成29年度			平成28年度 → 大雪対応で急遽、前日に中止決定 平成29年度 → 鳥取市中核市移行手続き調整で延期
平成30年度	海外発生期	鳥インフルエンザA (H7NX)	人事異動を踏まえ、初期ステージで実施
令和元年度 (R2. 2. 4)	県内発生早期	新型コロナウイルス感染症	・当初は新型インフルを想定し準備 → 新型コロナ発生を踏まえ急遽、想定変更 ・H30 に中核市移行した鳥取市も参加 → 搬送訓練も同時実施

2) 多くの関係機関等が訓練参加

- 県庁内関係部局だけではなく、中核市（鳥取市保健所）、検疫所、県医師会、専門家（大学教授）も参加
- 訓練は、県内市町村、消防局等にも映像配信

3) シナリオなきシナリオで訓練実施

- シナリオ（進行順）はあるけど..... 参加者の読み原稿なし
→ 緊張感ある本番を想定した訓練を毎回実施

令和5年度 新型インフルエンザ対策等対策訓練

【訓練コンセプト】

- ① **政府訓練の想定にあわせ、県本部運営訓練を企画**
→ 政府本部会議が開催されれば同日には県本部会議を実施していたコロナ対応を踏まえ、11月9日(木)午後には訓練実施
- ② **海外発生期の想定を踏まえ、初動対応を訓練**
→ 訓練参加部局を限定して実施
- ③ **最近の実働がない患者搬送の訓練も同一日に実施**
→ 県内3保健所(中核市の鳥取市保健所も)、感染症指定医療機関が参加
- ④ **「国と都道府県との緊急連絡会議」は、県本部運営訓練で話し合った対策を報告**

【11/9タイムスケジュール】

時間	国	鳥取県
午前	政府本部会議	
午後		県本部会議 搬送訓練
夕方	国と都道府県の 緊急連絡会議	

<短期間で準備が出来た背景>

- ・実施すべき対策は、新型コロナで体験済み(資料作成は短時間で可能)
- ・さらに、新型コロナ対応時は、対策本部会議開催を当日決定・当日実施した経験が複数あり
→準備期間は十分にあった(訓練実施の決定日:10/23)
- ・本部運営訓練は、参加部局を限定したことにより、事前調整もほとんどなし
部局長等も、新型コロナ対応動員の経験あるなど庁内の理解レベルが高い
- ・患者搬送訓練は、院長を先頭にした医療機関の絶大なる協力により実施が可能となった

令和5年度 新型インフルエンザ対策等対策訓練 (対策本部 運営訓練)

- 1 日 時 令和5年11月9日(木)午後1時20分～1時40分
- 2 場 所 県庁災害対策本部室(オンライン併用)
- 3 参加機関 知事、統轄監、総務部、福祉保健部、生活環境部(衛生環境研究所)
鳥取市保健所(中核市保健所)
鳥取大学医学部教授(感染症対策専門家:アドバイザー)
※訓練映像を県の全機関にテレビ配信
- 4 訓練想定 国の想定と同内容
本番と同様に進行(訓練開始の号令なし)
- 5 内 容 県対策本部会議を開催し、情報の共有、対応状況の確認、県民への情報発信などの初動対応を確認(報道 フルオープン)

①情報の共有	・政府等の動き(政府対策本部の設置等)、新型インフルエンザの概要、県対策本部の設置等
②対応状況の確認・共有	・相談窓口の設置(福祉保健部、各保健所) ・医療提供体制の確認(感染症指定医療機関での病床確保状況、医療機関への協力依頼等) ・検査体制の確認(県衛生環境研究所、民間検査機関等の検査体制確保状況) ・情報発信体制の確認(県ホームページの特設サイト立上げ、県版CDCでの情報収集・分析・情報発信等) ・个人防护具・治療薬の備蓄の確認 ・庁内体制の確認(国内発生期、県内発生期に備えた県対策本部・保健所等への応援体制の確認等)
③県民への情報発信	・県民へのメッセージを発信 (新型インフルエンザの発生情報、相談・受診方法、感染対策のお願い、相談窓口・特設サイトの案内)
④その他	・鳥取市(中核市保健所)の対応状況の報告・共有 ・感染症対策専門家による助言

令和5年度 新型インフルエンザ対策等対策訓練 (患者搬送訓練①)

- 1 日 時 令和5年11月9日(木) 午後2時～2時45分
- 2 場 所 県倉吉保健所
県立厚生病院(感染症指定医療機関[感染症病床4床:第1種2床、第2種2床])
- 3 参加機関 県感染症対策課、県倉吉保健所、県立厚生病院、
鳥取市保健所(中核市保健所)、県米子保健所、県衛生環境研究所
- 4 訓練内容(報道 フルオープン)

No.	内 容	場 所
①	・倉吉保健所による患者搬送(ストレッチャー及び患者移送車)	倉吉保健所 →県立厚生病院
②	・県立厚生病院による患者の受入 (地下駐車場から感染症病棟へエレベーターで移動) ・感染症病床への患者入室 ・検体採取、検体梱包 ・ストレッチャー消毒・搬出、個人防護具の脱衣	県立厚生病院

<想定患者>

- ・年代:30歳代、性別:女性(日本人)、居住地:倉吉市
- ・経過:11/6 新型インフルエンザの発生が確認されているX国から帰国(関西空港)
鉄道を利用し倉吉の自宅へ戻る。症状は特になし。
11/8 発熱39℃、咳、全身倦怠感
11/9 高熱が続き倦怠感が強まり、保健所に相談

令和5年度 新型インフルエンザ対策等対策訓練 (患者搬送訓練②)

1 患者の移送

倉吉保健所が感染症患者移送車により厚生病院へ患者移送



2 患者の受入

病院職員誘導のもと、保健所職員がストレッチャーで患者を病室まで搬送



3 病室内への移動

前室から病室へ入り、病院職員と保健所職員で患者をベッドに移動



※フルPPE装着者のうち、青いガウンが病院職員、その他が保健所職員

令和5年度 新型インフルエンザ対策等対策訓練 (患者搬送訓練③)

4 検体採取、梱包

病院医師が検体採取
保健所職員が受け取り、消毒
後、梱包



5 ストレッチャー搬出

ストレッチャー消毒後に病室
から搬出



6 個人防護具の脱衣

個人防護具を脱衣し退室



※前室ドアは、写真撮影のため、開放(実際は、開放なし)

令和5年度 新型インフルエンザ対策等対策訓練 (振り返り)

《対策本部 運営訓練》

- 感染症対策専門家から、インフルエンザを踏まえた対策（飛沫感染は流行規模の拡大まで短期間、PCR検査体制の早急な確立等）など、今後の発生に備えた助言が得られた。
- 国内発生期や県内発生期など様々なステージを想定し、訓練を継続実施し、全庁で対応力の維持・向上を図ることの重要性を再認識した。

《患者搬送訓練》

- 保健所職員も定期的な異動がある中で、フルPPE着用、ストレッチャー使用のシビアな状況を想定し、手順が確認できた。
- 県内唯一の第一種感染症指定医療機関で、県内全保健所及び衛生環境研究所が参加したことで、患者搬送時の院内動線・患者引き渡し等の確認が出来た。
- 保健所や医療機関の現場対応力・連携の維持・向上のため、継続的な訓練が必要。

《今後の訓練》

- 
- **対策本部運営訓練**は、**参加部局等をさらに拡大しつつ継続実施**
 - **他の感染症指定医療機関**でも**患者搬送訓練を実施**
 - **疫学調査の訓練実施**も検討